

下関市医療対策協議会（下関医療圏地域医療構想調整会議）
（令和８年度第１回）議事概要

【日 時】令和８年８月１７日（月）１９：００～２０：３０

【場 所】下関市役所 本庁舎 西棟５階 大会議室

【出席者】出席者名簿のとおり

【議事内容】

- 地域医療構想の進捗状況の検証を行い、医療機関対応方針の取組の実施状況等について確認した。
- 病床数適正化緊急支援事業について、下関市立市民病院（※）、下関医療センター（※）、すみだ内科クリニック（※）、織田クリニック（※）、すずらんレディースクリニック（※）、佐々木整形外科・外科の病床削減に係る説明を行った。
今後、病床を削減する※を付した医療機関について、新興感染症に係る協定による病床の確保等、地域の医療提供体制に問題がないことを確認した上で、地域医療構想の達成に向けた対応方針の変更について合意した。
- 新たな地域医療構想策定ガイドラインの概要並びに令和８年度の優先的検討事項、３か年度分の策定ロードマップ、検討体制及び構想区域・急性期拠点機能の決定手法について説明を行った。
- 新下関市立病院整備基本計画について合意した上で、４病院での医療機能の分化・連携の推進を図るための協議を進めていくこと、４病院で地域医療介護総合確保基金の事業計画を作成し、次回以降の調整会議で協議することについて合意した。

１ 令和８年度地域医療構想調整会議の進め方について

２ 令和７年度病床機能報告結果について

３ 地域医療構想の進捗状況の検証について

県医療政策課から、今年度の地域医療構想調整会議の予定、令和７年度病床機能報告結果について説明を行った上で、地域医療構想の進捗状況を検証するとともに、医療機関対応方針の取組の実施状況等について確認を行った。

（主な意見・質問等）

特になし。

４ 病床数適正化緊急支援事業について

県医療政策課から病床数適正化緊急支援事業の概要について説明した後、病床削減概要及び対応方針（２０２５プラン）の変更について、すみだ内科クリニック、織田クリニック及びすずらんレディースクリニックに係るものについて同課から、

下関市立市民病院及び下関医療センターに係るものについてそれぞれの医療機関から説明を行った。

すみだ内科クリニックについては、看護師等の人材不足による人員配置の適正化の必要等ため、回復期病床13床を削減すること、削減対象病床は空床である等のため病床を削減しても問題ないことが説明された。

織田クリニックについては、看護師等の人材不足による人員配置の適正化の必要等ため、休床9床を削減すること、削減対象病床は休床である等のため病床を削減しても問題ないことが説明された。

すずらんレディースクリニックについては、産後ケア専用部屋として改装し、充実したケアを受けられる体制整備を行い、更なる受け入れ態勢強化を図るため、急性期2床を削減すること、病床利用率の低下及び現状の病床利用率から病床を削減しても問題ないことが説明された。

下関市立市民病院については、看護師等の人材不足によって、人員配置を適正化するため、休床54床を削減すること、削減対象病床は休床である等のため病床を削減しても問題ないことが説明された。

下関医療センターについては、看護師等の人材不足によって、今後も人材確保が困難が予想されるため、急性期病床37床を削減すること、削減対象病床は事実上、休床である等のため病床を削減しても問題ないことが説明された。

協議の結果、これらの医療機関の病床削減について新興感染症に係る協定による病床の確保等、地域の医療提供体制に問題がないことを確認し、対応方針の変更について合意した。

(主な意見・質問等)

特になし。

5 かかりつけ医機能報告結果について

県医療政策課から、令和7年度かかりつけ医機能報告の結果及び活用のあり方について説明を行った。

(主な意見・質問等)

特になし。

6 新たな地域医療構想の策定について

県医療政策課から、新たな地域医療構想策定ガイドラインの概要並びに令和8年度の優先的検討事項、3か年度分の策定ロードマップ、検討体制及び構想区域・急性期拠点機能の決定手法について説明を行った。

(主な意見・質問等)

○ 構想区域を変更する予定はあるか。

⇒ 構想区域に係るデータ分析については、国から随時、送付されるデータにより行うところ、現状、県として、具体的な案をお示しできる段階にない。

今後、構想区域の案を示していくこととなるが、医療機関へのアクセス等、地域の関係者の意見を聞きながら検討して参りたい。

○ 説明によると、1年間くらいで構想区域や急性期拠点機能を担う医療機関という重大な事項を決定することとなるが、具体的な作業の手順や、より詳細なロードマップを示していただきたい。

⇒ ロードマップの記載は目安であるところ、圏域ごとの議論の進捗状況に応じ、前後するものと考えている。

急性期拠点機能を担う医療機関の決定については、4病院会議とは別の会議体を作ることの適否も考慮しつつ、急性期の輪番病院を中心に専門的な議論を行いたいと考える。

急性期以外の医療機関とのすり合わせについては、回復期・慢性期専門部会や調整会議の全体会議に報告の上、協議等することで確保したい。

詳細なロードマップ提示の必要性については承知した。

○ 構想区域や急性期拠点機能を担う医療機関の決定には医師の確保が重要であるところ、大学病院との調整はどのように考えているか。

⇒ 大学病院に対し、現在の医師派遣の状況に関する情報提供を受けるとともに、その方向性や考え方等をお聞きしつつ調整して参りたいと考えている。

7 4病院体制から3病院体制への医療機能の集約・機能強化に向けた今後の取組について

市地域医療課から、新下関市立病院整備基本計画の概要及び今後の新病院を含む下関圏域の4病院の医療機能の集約・機能強化を進め方等について説明を行った。

協議の結果、新下関市立病院整備基本計画について合意した上、4病院での医療機能の分化・連携の推進を図るための協議を進めていくこと、4病院で地域医療介護総合確保基金の事業計画を作成し、次回以降の調整会議で協議することについて合意した。

(主な意見・質問等)

○ 新病院の長期的な収支の見通しについてどのように考えているか。

⇒ 基本計画においては、4年目以降の黒字化を見込み10年目までの収支を記載しているところだが、10年目以降も、健全な病院経営ができるように取り組みを進めてまいりたい。

○ 新病院は産科と小児科を置かないということだが、乳児・小児の外傷等、他科との連携が必要なケースについては、今後、山口県済生会下関総合病院が担っていくことになるのか。

⇒ 下関市の出生状況等に鑑みると、下関医療圏に複数設置する必要性は乏しいとされている。

現在、山口県済生会下関総合病院で対応している小児、周産期の部分については、引き続き担っていただくことを考えている。

○ 新病院について下関大丸をリニューアルすることや名称を市民に親しみやすくすることについてどう考えるか。

⇒ 下関大丸の有効活用については、市としても非常に大きな課題と考えているところ、築年数が相当経過していること等の事情も考慮しつつ、検討をしてまいりたい。

新病院の名称については、今後、ふさわしいものを検討していく。

○ どの診療科についても、人材確保ができれば医療提供ができるわけではなく、機材整備や運転資金の確保等も重要である。

○ 基本計画において記載されている建設費は今後、増大するおそれがあるので、これを市民に負担させることの適否も考えなければならない。

○ 市民の皆様にも、個別の病院が全ての医療を提供することが当然であるわけではないということをご理解いただきたい。

以上